

中国の大学日本語教科書における登場人物の設計に関する研究

北京外国語大学 北京日本学研究センター 朱桂榮 彭子燕 楊録溪

1. 研究背景

外国語教育において、教科書は言語知識だけでなく文化要素も含んでいる。そして、教科書に描かれた人物を通して言語使用の場面を示すこともできる。さらに、教科書の中の人物を通して、思考を促し、心の成長を導くこともできる。言い換えれば、教科書における人物設計は重要な教育的役割を果たしている。従って、本研究は教科書編集の基礎研究として、中国の大学日本語教科書における人物設計に焦点を当てて研究を展開する。

2. 先行研究

教科書における人物設計について内部体系性と外部有効性という二つの原則があると指摘されている（朱勇・張舒 2018）。内部的な体系性とは、登場人物が教科書の物語の全体を貫いて発展していくことである。具体的には、以下二つの側面がある。一つ目は、登場人物は物語の展開と深く関わることである。この関わりを通して、教科書の筋書きの一貫性を保つだけでなく、登場人物の性格もよりはっきり表現させることである。二つ目は、登場人物は豊かな人間関係や多様な個性を持つことである。さまざまな角度や側面から複数の登場人物の関係を示し、それぞれの特徴や個性を描き、物語の展開を導いていく。このように、教科書における登場人物のデザインは、強固なネットワークのようなものであり、教科書の内部体系性において重要な役割を果たしていると指摘されている。

外部的な有効性とは、教科書に登場する人物は真正性を持っていることである。言い換えれば、実生活に存在し、学習者が出会えるような相手である。具体的に以下三つの側面がある。一つ目は、登場人物の行動や考え方は、その地域、国、性別、年齢、アイデンティティ、職業などに相応しいことが求められる。登場人物は完璧である必要もなく、欠点のある人物像を避ける必要もない。そして、時代の背景に沿って登場人物を設計することも真正性の保証に不可欠である。二つ目は、登場人物は文化性を持つことである。文化性とは、登場人物はその国の文化や価値観や行動パターンを意識的に反映する必要がある。三つ目は、登場人物は異文化性を持つことである。異なる文化背景を持つ登場人物を設計する必要があり、物語の展開に伴い、異なる文化背景や性格の登場人物が異文化間の葛藤や問題を解決していくことによって、学習者の異文化コミュニケーション能力の育成につながることを期待される。また、同じ国の登場人物に異なる個性を設定することで、ステレオタイプを避けることも指摘されている。

3. 研究対象

本研究は、彭広陸、守屋三千代を総編集者とし、北京大学出版社によって出版されたシリーズ教材である『総合日本語』（第1冊～第4冊）を研究対象にする。この教科書は、中国の大学の日本語専攻の主幹科目である「基本基本語」の教科書であり、大学に入ってから日本語を習い始める大学生を対象とする。この教科書を選定した理由は、主に以下の2つである。一つ目は、『総合日本語』は、中日両国の専門家が協力して編纂したもので、日本語専攻の基礎段階の教科書として代表的なものの一つで、2005年に初版された以来、中国の日本語教育界で広く注目されているからである。二つ目は、『総合日本語』には固定的な登場人物の設定と物語の発展があり、本研究の研究対象としてふさわしいと思われるからである。